

デーリー東北
2021年(令和3年)6月26日(土曜日) (16)

市内神社 手のひらサイズに

藤田さん 卒業制作 3Dプリンターで再現

八戸工業大は19日、感性デザイン学部卒の会社員藤田侑可さん(23)＝三戸町出身、岩手県遠野市在住＝が、卒業制作として3Dプリンターを活用して作った、八戸市内の神社の模型37点を市博物館に寄贈した。現存する市内の神社を網羅的に記録した模型は珍しく、藤田さんは「細部にこだわったので、それぞれの神社の特徴に注目してほしい。神社の魅力をたくさんの人に知ってほしい」とアピールした。

(松橋瑞偉)



3Dプリンターを活用して神社の模型を作った
八戸工業大卒の藤田侑可さん

八工大、市博物館に37点寄贈

元々、神社が好きだったという藤田さんが、昨年5月から今年1月ごろまで、約9カ月を要して完成させた。

神社に直接足を運び写真を撮るなど調査した上で、コンピュータ利用設計システム(CAD)を使って設計図を作成。着色ソフトで色を塗ってから、3Dプリンターで出力した。

南郷地区を除く神社庁に登録されている神社を、手のひらサイズで再現。最も大きいのは縦7センチ、横10センチ、高さ5センチほどの蕪嶋神社で、三島神社や榊引八幡宮なども特徴をつかんだ外観となっている。

藤田さんは「誇張する部分と省略する部分を自分で考えながら作り、一目見て『あの神社だな』と分かるように表現した」と説明する。

同館で贈呈式が行われ、市教委の伊藤博章教育長が藤田さんに感謝状を手渡し、謝意を伝えた。同館の小保内裕之館長は「価値のある作品を寄贈していただき感謝している。今後は神社に詳しくない人や子どもに向けて活用したい」と話した。

作品の一部は、7月10日～8月29日に同館で開かれる、根城跡の史跡指定80周年を記念する特別展「乱世の終焉―根城南部氏と城―」で展示する予定。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。